



# チーム玉幡

令和2年7月10日

学校長 丸茂和也

## いただきます、ごちそうさまでした

7月7日（火）の給食は、七夕給食でした。メニューはちらしずし、とり肉のからあげ、すまし汁、七夕デザート、牛乳でした。七夕ゼリーには星形も入っていて、当日が七夕であることをより感じることができました。

本校の給食は野田先生と塚本さん、山下さん、輿石さん、佐藤さんの4人の調理員さんで作ってくれています。ご飯はほどよい温かさで、からあげもカリッとしておいしく食べられました。すまし汁は熱々で、中の野菜も食べやすい大きさに、麩やなるとなどもあり彩りもきれいでした。「おいしく食べてもらいたい」という食べる人のことを考えて作ってもらえる給食に、先生や調理員さんの「心」を感じています。



「いただきます」には、2つの感謝の意味があるそうです。まず一つ目は作ってくれた人、野菜や肉など材料を作り、育ててくれた人、運んだり売ってくれたりという食に関わってくれた人々の感謝です。そして二つ目は食材である肉や魚、野菜やくだものにも命があり、その命を自分の命にさせていただきます、とそれぞれの食材への感謝です。「ごちそうさま」は漢字で書くと「御馳走様」となり、食材をそろえるために、食事を作ってもてなすために走り回る（馳走→走り回るという意味）ことで、いろいろと大変な思いをして食事を準備してくれた方への感謝を込めて「様」がつき、食事のあとに「ごちそうさまでした」とあいさつするようになったということです。

玉幡小学校の給食はおいしく、作ってくれる人の心が入っています。毎日「食」と「心」をいただいています。今日もおいしい給食を「いただきます」「ごちそうさまでした」



## 学校に咲く「ありがとう」の花

児童会の取り組みの「玉小ツリー」では、全校のみなさんからの「ありがとう」の花がどんどん増えていって、今日現在で244枚もの花が咲いて、2本目の木がそろそろ満開になろうとしています。その中からいくつかを紹介します。

「〇〇さんへ いつもなかよくしてくれてありがとう」

「〇〇先生へ いつも授業をていねいに教えてくれて、話につきあってくれて、ありがとうございます」

「〇〇さんへ この間あいさつをしたら、返してくれてうれしかったよ。ありがとう」

「6年生へ わたしとあそんでくれてありがとう。とてもうれしかったです」

「1年生のみなさんへ 話しかけたら、いっしょに話してくれてありがとう、とても楽しかったです。楽しかった?と聞いたら、楽しいと言ってくれてありがとう」

「たてわり班の〇〇さんへ たてわり班で自己しょうかいをしたとき、大きな声でわかりやすかったです。ありがとう」

「調理員のみなさんへ いつも給食のワゴンを運んでくれてありがとうございます。そして給食とてもおいしいです。ありがとうございます」

「〇〇のみんなへ 毎日学校へ来てくれてありがとう。みんなの顔を見ると元気がでる!いっしょにてっぺんを目指そうね」

「児童会のみなさんへ いつも全校のためにがんばってくれてありがとう」



ありがとうを感じられるみなさんのきれいな心、それを伝えられるすなおな気持ちをととてもうれしく思います。3月までには校庭の桜と同じくらいこのありがとうの木がたくさん満開になる未来を、みんなでつくっていければと思います。

## みんなで健康を守る

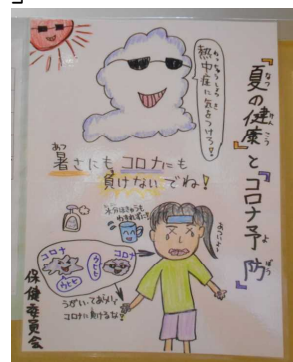
「まけないで コロナをよぼう がんばろう」

「あつくても まけないからだ つよくなれ」

「かえったら 手洗いうがい 続けよう」

「しっかりと マスクをつけて予防しよう」

などのキャッチフレーズや、右のようなポスターを保健委員会のみなさんが作り、保健室の廊下や各階の水道場を中心に校内に貼ってくれました。そして休み時間には放送でも呼びかけをしてくれています。



玉幡小学校にいる全員がこれからも健康で、笑顔でありますように、みんなで力を合わせて取り組んでいきたいと思います。保護者の皆様の日々の健康観察や予防等へのご協力感謝申し上げます。今後ともよろしくお願いいたします。